

## 授業づくりのポイント！

### —QUの視点で考える—

#### ◇どの子どもできる、わかる、楽しい授業のために

子どもたちの学校生活におけるほとんどの時間は「授業」である。授業の時間の中で、子どもたちの学ぶ力を高め、子ども同士の関係も作っていく授業にするためにはどうしたらよいかを考える。

#### ◇「適合の視点」・「育成の視点」

学級集団の状態を踏まえた授業づくりを行うためには、適合の視点、育成の視点をもち、授業づくりを進めることが大切である。授業のねらいを達成するためには、学級集団の状態に適合していることと、そこに学級担任の願いである育成の視点があることが重要である。

#### 「適合の視点」

授業のねらいの達成のために、授業が現在の学級集団の状態に適したものになっているか。

#### 「育成の視点」

授業が、現在の学級集団の課題の克服や学級経営の願いの実現に向かうものになっているか。

学級の状態に合わせて  
 ・グループ編成  
 ・人数  
 ・話し合う内容  
 ・教師の関わりの度合い  
 ・相互交流（ペア、グループ）の場  
 などを考えることが大切。

担任の願いに沿った場の設定  
 ・「人間関係を育てたい」  
 ⇒教え合う場面を取り入れ、協働的な集団活動  
 ・「子どもに自信を育てたい」  
 ⇒子ども同士が認め合う場を導入、教師による励まし、承認を増やす 等

#### 子どもたちの実態を把握し、実態に合わせた指導をすることが大切である。

教師の見取り、観察、個別相談等を行い、的確に判断する。また、「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」を活用すると客観的に学級集団の実態をとらえることもできる。

学級の子どもたちに合った授業を考えることで、効果的に子どもたちの学びの力が高まると考えられる。

#### ◇ゴールを明確に(例：1年 図工「ゆらゆらゆらりん」)

1時間の授業の中で、なにができるようになるかのイメージを考える。また、単元の最後にはどんな姿になっていけばよいかをイメージする。  
 具体的な子どもの姿をイメージすることが大切。

**1時間**⇒仕組みを生かした作品をイメージする、仕組みを使った作品の土台ができる

**単元の最後**⇒仕組みに合った作品が完成し、「ゆらりんランド」で友達と見合うことができる

そのための  
 ①何を教えるのか（指導）  
 ②どう教えるのか（学習活動）  
 などを考える。



#### 授業展開のポイント (例：1年 図工「ゆらゆらゆらりん」)

導入部	授業の導入場面で、子どもたちの問題意識をわし掴みにし、一人一人の子どもの中に「問い」を育てていく。 ⇒本時では、 <b>模型を提示し、自由に触れさせることでもっと工夫したいという意欲を高める</b>
展開部	話し合い活動、グループ活動、書く活動、表現活動協働的な活動など、どのような学習活動を導入することが有効かを検討する。 ⇒本時では、 <b>小グループで話し合い、作品のイメージを広げる</b>
終結部	学習内容の定着や子どもの思考の整理、次時への移行のために学習の振り返り、自己評価、相互評価等どのような展開や活動の導入が必要かを検討する。 ⇒本時では、 <b>見合いっこタイム(友達同士で作品を見合う時間)を確保し、「いいね」(いいところ)を見つけ合う。</b>

#### 授業を進める時のポイント

- ①模型など具体物を準備し、視覚的に惹きつける
- ②よいところ、工夫しているところを評価し、子どもの考えに自信を持たせる
- ③苦手な児童へは、考える手がかり、見通しをもてるような関わりを（時間の十分な確保も大切）
- ④発言のさせ方の工夫（挙手指名、列指名、グループ指名等）
- ⑤聴くルールを徹底し、発言者の顔を見る、友達の意見を大切にすることを徹底する。フォローも大切に。